



■使用評価マニュアル: CASBEE-戸建(新築) 2016年版

■バージョン: CASBEE横浜[戸建]2017年版v.1.4

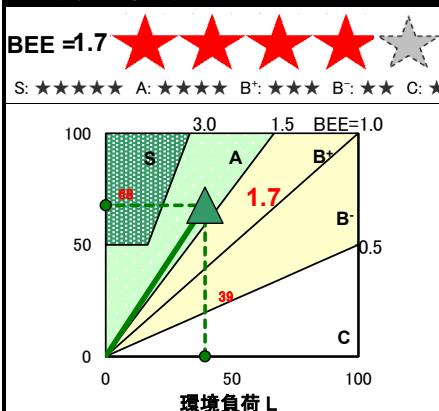
1-1 建物概要

建物名称	個人住宅	仕様等の確定状況	建物の仕様	確定
竣工年月	2020年11月	竣工	持ち込み家電等	確定
建設地	横浜市戸塚区秋葉町	確定	外構の仕様	確定
用途地域	第1種低層住居専用地域			
省エネルギー地域区分	6 地域			
構造・構法	木造(枠組壁工法)	確定		
階数	地上2階	確定		
敷地面積	139 m ²	確定		
建築面積	57 m ²	確定		
延床面積	104 m ²	確定		
世帯人数	6	仮		

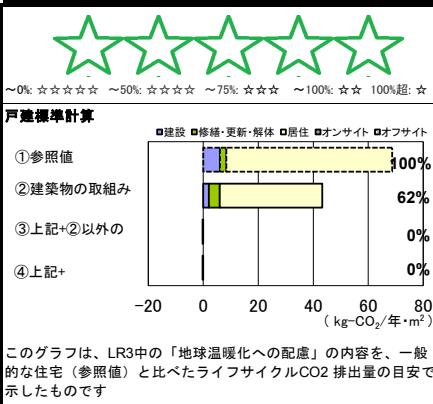
1-2 外観



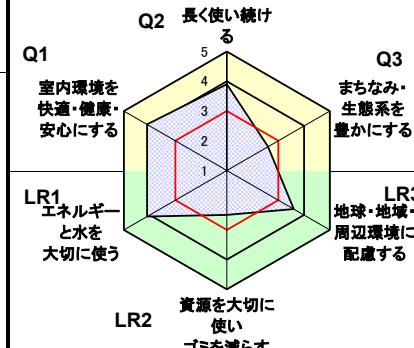
2-1 戸建の環境効率(BEEランク&チャート)



2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

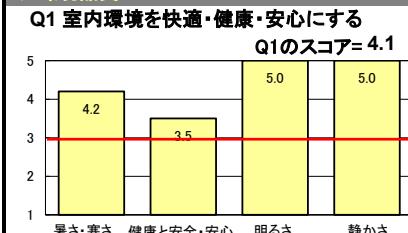


2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

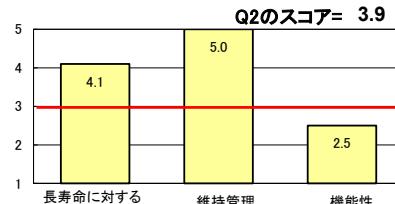


2-4 中項目の評価(バーチャート)

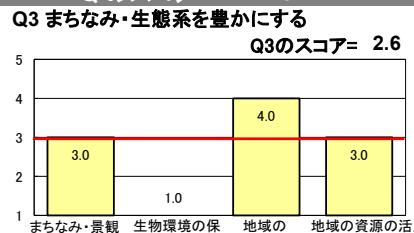
Q 環境品質



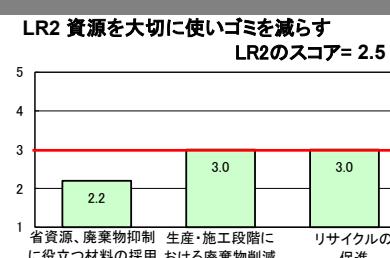
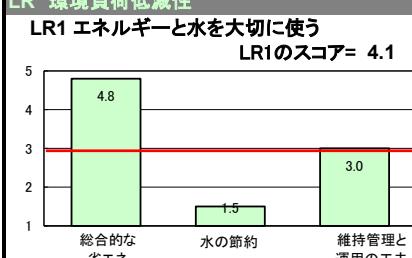
Q2 長く使い続ける



Q のスコア= 3.7



LR 環境負荷低減性



LR のスコア= 3.4



3 設計上の配慮事項

総合

設計住宅性能評価書・長期優良住宅の認定に適合する住宅とし、環境品質・環境負荷低減に配慮した計画とする。

その他

Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

熱抵抗の高い断熱材・Low-E複層ガラスを採用する。
すべての部屋において通風・排熱を促進する平面計画とする。
ホルムアルデヒドの発散量が極めて少ない建材を採用する。
開口率の確保及び間接・夜空の有効採光面積を南面の窓で確保する。

Q2 長く使い続ける

構造躯体等に劣化対策を施し、外壁・屋根の仕上げは耐用年数の長い材料を使用し乾式工法とする。
維持管理のガイドラインを作成する。

Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

構造躯体等に劣化対策を施し、外壁・屋根の仕上げは耐用年数の長い材料を使用し乾式工法とする。
維持管理のガイドラインを作成する。

LR1 エネルギーと水を大切に使う

太陽光発電パネル屋根・IHクッキングヒーターの採用する。

LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 個人住宅

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

5

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量

69

%削減



一次エネルギー消費量基準

適合

外皮基準

適合

0

誘導基準

▲▲

受付日

2020年7月20日

■エネルギーを大切に使う (①建物の工夫 ②設備の性能 ③維持管理と運用)

①太陽光発電によるエネルギーの削減。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【健康・安心】

5

■室内環境対策 (④暑さ・寒さ)

◆断熱等性能等級 等級4 (相当)

④UA=0.32

■室内環境を快適・健康・安心にする (⑤健康と安全・安心)

⑤ホルムアルデヒド対策における等級3を満たしている。

■その他の対策 (⑥自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 あり

⑥すべての居室において通風・排熱を促進する平面計画

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防災】

4

■災害に備える (⑦災害に備える ⑧長寿命に対する基本性能 ⑨地域の安全・安心)

⑧日本住宅性能表示基準「1-1耐震等級」における等級3を満たしている。

⑨建物から道路境界線までの離隔距離を1m以上確保等。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

2

■まちなみ・生態系を豊かにする (⑩まちなみ・景観への配慮 ⑪生物環境の創出)

太陽光発電などの導入



太陽光利用

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギー・マネジメントシステム以外)

蓄熱設備・

エネルギー・マネジメントシステム導入

— —

CASBEE® 横浜[戸建] 評価結果 | 2-052



CASBEE横浜[戸建] (2017年版)

個人住宅

バージョン : CASBEE横浜[戸建]2017年版v.1.4

スコアシート		重点項目	評価点	重み係数	全点
配慮項目					
Q _H すまいの環境品質			-	-	3.7
Q _{H1} 室内環境を快適・健康・安心にする			-	0.45	4.1
1 暑さ・寒さ			4.2	0.50	4.2
1.1 基本性能			3.4	0.50	-
1.1.1 断熱等性能の確保	1	健康・安心	4.0	0.80	-
1.1.2 日射の調整機能	2	健康・安心	1.0	0.20	-
1.2 夏の暑さを防ぐ			5.0	0.25	-
1.2.1 風を取り込み、熱気を逃がす	1		5.0	0.50	-
1.2.2 適切な冷房計画	2		5.0	0.50	-
1.3 冬の寒さを防ぐ			5.0	0.25	-
1.3.1 適切な暖房計画	1		5.0	1.00	-
2 健康と安全・安心			3.5	0.30	3.5
2.1 化学汚染物質の対策		健康・安心	5.0	0.25	-
2.2 適切な換気計画		健康・安心	3.0	0.25	-
2.3 犯罪に備える		健康・安心	3.0	0.25	-
2.4 災害に備える		防 災	3.0	0.25	-
3 明るさ			5.0	0.10	5.0
3.1 曜光の利用			5.0	1.00	-
4 静かさ			5.0	0.10	5.0
Q _{H2} 長く使い続ける			-	0.30	3.9
1 長寿命に対する基本性能			4.1	0.50	4.1
1.1 車体		防 災	⑧長寿命に対する基本性能	5.0	0.30
1.2 外壁材				4.0	0.10
1.3 屋根材、陸屋根				3.0	0.10
1.4 自然災害に耐える		防 災	⑧長寿命に対する基本性能	5.0	0.30
1.5 火災に備える				2.4	0.20
1.5.1 火災に耐える構造	1			1.0	0.65
1.5.2 火災の早期感知	2			5.0	0.35
2 維持管理			5.0	0.25	5.0
2.1 維持管理のしやすさ			5.0	0.65	-
2.2 維持管理の計画・体制			5.0	0.35	-
3 機能性			2.5	0.25	2.5
3.1 広さと間取り			3.0	0.50	-
3.2 バリアフリー対応			2.0	0.50	-
Q _{H3} まちなみ・生態系を豊かにする			-	0.25	2.6
1 まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	⑩まちなみ・景観への配慮	3.0	0.30
2 生物環境の創出				1.0	0.30
2.1 敷地内の緑化		地域・まちづくり	⑪生物環境の創出	1.0	0.65
2.2 生物の生息環境の確保				1.0	0.35
3 地域の安全・安心		防 災	⑨地域の安全・安心	4.0	0.20
4 地域の資源の活用と住文化の継承				3.0	0.20
LR _H すまいの環境負荷低減性			-	-	3.4
LR _{H1} エネルギーと水を大切に使う			-	0.35	4.1
1 総合的な省エネ			4.8	0.75	4.8
1.1 車体と設備による省エネ		省エネルギー性能	①建物の工夫	5.0	0.90
1.2 家電・厨房機器による省エネ		省エネルギー性能	②設備の性能	3.0	0.10
2 水の節約			1.5	0.15	1.5
2.1 節水型設備			1.0	0.75	-
2.2 雨水の利用			3.0	0.25	-
3 維持管理と運用の工夫			3.0	0.10	3.0
3.1 住まい方の提示		省エネルギー性能	③維持管理と運用	3.0	0.50
3.2 エネルギーの管理と制御		省エネルギー性能	③維持管理と運用	3.0	0.50
LR _{H2} 資源を大切に使いゴミを減らす			-	0.35	2.5
1 省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用			2.2	0.60	2.2
1.1 構造躯体			3.0	0.30	-
1.1.1 木質系住宅	1		3.0	1.00	-
1.1.2 鉄骨系住宅	2		3.0	-	-
1.1.3 コンクリート系住宅	3		3.0	-	-
1.2 地盤補強材・地業・基礎			3.0	0.20	-
1.3 外装材			1.0	0.20	-
1.4 内装材			1.0	0.20	-
1.5 外構材			3.0	0.10	-
2 生産・施工段階における廃棄物削減			3.0	0.30	3.0
2.1 生産段階(構造躯体用部材)			3.0	0.33	-
2.2 生産段階(構造躯体用以外の部材)			3.0	0.33	-
2.3 施工段階			3.0	0.33	-
3 リサイクルの促進			3.0	0.10	3.0
3.1 使用材料の情報提供			3.0	1.00	-
LR _{H3} 地球・地域・周辺環境に配慮する			-	0.30	3.6
1 地球温暖化への配慮			5.0	0.33	5.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	3.0
2.1 地域インフラの負荷抑制			2.0	0.50	-
2.2 既存の自然環境の保全			4.0	0.50	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	3.0
3.1 騒音・振動・排気・排熱の低減			3.0	0.50	-
3.2 周辺温熱環境の改善			3.0	0.50	-